

## 聖文新報

吾等の標語

新らしき世界は研究の世界、といふ標語に二様の意義が含蓄されてゐる。一つは是からの世界は研究の世界だといふのと、

今一つは新らしき世界は研究に依つて得らるといふのである。

然し此二様の意味も結局研究を必要無比のものとする點に於て

同一である。

この標語は現在の在伯邦人に適応して最も有意義たるを信す。

從來我移殖民は一般に成功を

急ぎ、輕率で自己の能力や、

力以上に投機的經營を敢てし爲

めに數年或は十數年間の苦心勞

徒に相互乖離排斥を事とし、己

も水泡に歸し、遂に敗ふべか

を樹て、以て是等の點を調査研

究するの必要なは言を俟たな

き我國に於ては政府當局は勿

近頃晚晴さる母國政府は勤

めに数年間の苦心勞

徒に相互乖離排斥を事とし、己

も水泡に歸し、遂に敗ふべか

を樹て、以て是等の點を調査研</



天草情話

「…………」  
「一所に……」  
「ね？……」  
「…………わたしと死んで……」  
「新さん……」  
「…………」  
「…………いやや？」  
「…………」  
「…………」  
「彼の脳裡に——心中……死……死……死——と次々と太く文字が書かれて行つた。  
——でも却つてそれは愛の殿堂に入る事であり、最後の勝利である様に思へた。學問が何故か頗るいた。  
彼女のうるんだ眸が何故か頗る死なう……」  
「…………ほんと…………」  
「…………」  
小高い岩の上に立つた二つの影がひた／＼と崖を洗ふ小波が死への碎けてゐる。二三の虫が死への行進曲の様に鳴いてゐる。  
——死んで花質が咲くなれば寺や墓所は花だらけ——」  
沖を航く帆船からであらう、月闇を縫ふて咲々たる唄聲が聞えた。  
(つづく)

信じて聖戰の陣頭に上れ  
秋 風 来  
花木春過ぎ  
夏既に中す  
我も亦其の嘆を同じゆう  
既に秋風來る  
蟲聲しよく  
考ぬよと迫るのか  
月影皎々  
照らされ恥かしい  
我が秋の近づくを恐る  
奮闘なるかな  
奮闘なるかな  
奮闘を離れて休養なく娛  
命がけの奮闘  
血の汗が滴る全身全靈の  
其の間に感する得もいわ  
奮闘の妙味  
片々たる區々たる小娛樂  
奮闘を離れて向上なく布  
るに足らず  
立つも倒るゝも  
生くるも死ねるも  
奮闘又奮闘  
人間の特權なるかな  
【權威よ】  
◇：叙情長詩…◇  
第三者の歌へる  
浮浪  
お前は體に悶えてゐる  
どうして潔く進まないのが  
彼は彼自身がした事を心より  
ゆるであらう  
ふのか  
お前がほんたうに愛してき  
あつたと知つたら  
彼は彼自身がした事を心より  
ゆるであらう  
心の底から  
しかし彼は今でもお前を居  
ない  
彼は以前の彼に還つて  
お前を喜び迎へるだらう  
そして熱烈な愛をもてお  
す筈だ  
それこそお前の生涯を托  
餘りあるのだ  
ためらはず進め  
ためらはず進め  
…………それによつて現在  
迷路から救ふ事にもなる  
身も体も焼ける様な  
▲◇詩◆▼  
懐しの昔  
プロミッソン 中須  
身も体も焼ける様な

質砂子	の彼を	前に盡	して	から悔	るとの云	るのた	り	樂な	す
してても	ならば	信じて	して	私は一人	と云ふのに	の家	薄の茫々	學者の窓から	乾ききつた砂道を
前に盡	ならば	信じて	して	歩む	澄み渡つた空を見に	を出て、埃ほい町を出て	と生い茂る	枝に追れて	薪を積んだ牛が
してても	ならば	信じて	して	私は一人	土曜日の午後	土曜日の午後	鳥の騒ぎし	ノツソリ／＼車を挽いて行く	白い涎を
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	牧草は、秋だと云ふのに	家を出て、埃ほい町を出て	武藏野に	智の働きの足らん牛は	タラリ／＼と流して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	若々しい色を見せて	土の香に接したい爲に	波よしと出る	力の無い人の爲に	ノツソリ／＼車を挽いて行く
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	放牧の牛がそれを食んでゐる	常夏の牧草は、秋だと云ふのに	あの昔か	人の智に依つて	智の働きの足らん牛は
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	小丘にどかつとすわつた私は	風に送られゆるやかに走る	そとろに戀しくなつて來た	精一ぱいの力を出して	力の無い人の爲に
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	歩いて、歩いて、少し疲れた	小道を通る子が柿を食つてゐる	何となれば	働いて居る	人の智に依つて
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	空を仰ぐ	癡こんで 柿でも	私しは	然し人は	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	ちぎれ／＼の雲	嚙つたらうまからうと思つた	未だ満足出来ず	ノロキ牛の力では	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	風に送られゆるやかに走る	ほごろかな空、快活な南の雲	後から／＼新しい機械が	ノロキ牛の力では	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	小道を通る子が柿を食つてゐる	それと並んで	學者の窓から	人世に送り出されて来る	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	癡こんで 柿でも	湖水がチラ／＼光る	人世に送り出されて来る	そして半馬の價が	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	嚙つたらうまからうと思つた	白影のヨツトか	未だ満足出来ず	ダン／＼と	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	ほごろかな空、快活な南の雲	余りに詩的だ	後から／＼新しい機械が	人の目から	精一ぱいの力を出して
の彼を	の彼を	の彼を	の彼を	歩む	湖水がチラ／＼光る	うすら寒い風が	學者の窓から	薄らぐ様に	精一ぱいの力を出して

×短歌×□  
ふるさと  
幸運殖民地  
若葉美登里  
心し母戀しと思へども  
故郷遠く海は遙かよ  
久く四月の初め只ひとり  
沙見の寺の友を訪ねき  
郷の幼き友は子を抱く  
母となりしとより來れりぬ  
學びの友は如何になりしも  
と弟と二人はるばると  
兄を訪ねて來る書の來ぬ  
前驛スルクラベ線長延タヌリウバ  
永田忠雄  
セツテンブロード  
アベニタ  
アラサツーバ  
郷南二一  
太陽旅館  
吉瀬軍平  
キチセ  
バール  
御休憩所  
簡易な  
心地良き  
Lins  
Belo Horizonte  
Araçatuba  
SOL  
HOTEL  
Casa Kageyama  
Vera Cruz, C. P.  
搬運車動自▲ 貨雜外内▲  
買仲物產農▲  
店貨雜山影  
史博山影

<p><b>Casa TAKEUCHI</b> Cafelandia -Penna</p> <p>服地取揃へ在リマス</p>	<p><b>CASA HONDA</b> GUAYCARA</p> <p>農産物仲買</p> <p>△内外雜貨 △小間物 △農産物仲買</p>	<p>内外小間物</p> <p>吉田兄弟商店</p> <p>日本品 雜貨商</p> <p>ノロエヌテ銀ビリグキ譯 北西線グワキサラ譯 郵函 四七二番</p>	<p>DISTILLARIA INDEPENDENCIA RAPHAEL PEPINO, &amp; Cia Rua Princesa Isabel N. 13 L I N S</p> <p>低廉勉強 製造者 製造者 グワラナ、ラムネ、酢、ブドウ、酒 其他各種飲料品製造並卸小賣致します 滋養美味</p>	<p>○○バウル一市にて一番信用のある商店○○</p> <p>日用品販賣</p> <p>穀類仲買 溝神金助商店</p> <p>ペンソニンリソウ バウル一市 サントス</p>	<p>J. Yonamine Rua Senador Feijó 336 — Santos Tel. Central 1937.</p> <p>農產物の仲買 委託販賣、保管等</p> <p>營業課目 男女及小供洋服仕立 精々勉強營業仕立 何卒御愛顧の程幸頼也</p>
--	---	--	--	--	---

<p>上田商店 穀物仲買</p>	<p>富士山醤油醸造所 印 醌 油</p>	<p>是 非 御 家 庭 に お 試 し 下 さ い</p>	<p>FERRARIA de T. ONISHI -LINS-</p>	<p>Casa JAPONEZA Guarantán</p>	<p>Casa Yida H. YIDA Promissão, N. O. B.</p>	<p>Hotel Japonez e Bar Toky Okiyama, Miyasaka, &amp; Cia em Frente de Estação Noroeste BAURU</p>
<p>パクリスクタ延長線ガルサ驛前通</p>	<p>北西線ベンナ驛カフェランダ町</p>	<p>リスカルド九月七日街(つちや前)</p>	<p>自動車、電氣器具、諸機械修繕 大西留三郎</p>	<p>▲一般雑貨 ▲農產物仲買 村上商店 グアランタン驛</p>	<p>飯田商店 飯田彦光 プロミッソン驛前</p>	<p>日本旅館 沖山心平 バウルー市ノロエステ驛前 御出芭の節は是非 當館に御投宿下さい 宮坂實郎</p>

▼祖國通信▲

武神の祖と仰がれる

道臣命の墓所發見

宮幣大社大和かし原神宮では一

昨年來御大典紀念事業として

御祭神々武天皇に關する御史跡

を調査中の處最近測らざも神武

はれる道臣命の墳墓を發見した

大皇大和御平定の際、大伴氏の

大軍を率ひて天皇と御輔け申上

げた第一の功臣で武神の祖とい

る。原宮の西南十二丁の所に高さ三

メートルの古墳のみは完

全に残つたものである。尙附近には

鳥坂神社は道臣命が神武天皇か

ら邸宅を賜つた跡で、いづれも

あるが右新發見の古墳のみは完

全に残つたものである。尙附近には

鳥坂神社は道臣命が神武天皇か

ら邸宅を賜つた跡で、いづれも

あるが右新發見の古墳のみは完

全に残つたものである。尙附近には

鳥坂神社は道臣命が神武天皇か

ら邸宅を賜つた跡で、いづれも

あるが右新發見の古墳のみは完

全に残つたものである。尙附近には

鳥坂神社は道臣命が神武天皇か

ら邸宅を賜つた跡で、いづれも

あるが右新發見の古墳のみは完

全に残つたものである。尙附近には

鳥坂神社は道臣命が神武天皇か

## 號外發行に革命的發明

考案した断続機

新聞印刷機は一時間二萬枚の能

力と有したマリニ一輪轉機

の時代から八萬枚能力の時代に

進み、更に最近十三萬枚電光輪

轉機の出現するまでに發達した

今回發明特許權を得た。この製

造はこの無駄な時間の排除に苦

心研究を續けた結果高速度輪轉

機と分離した機械を要するもの

の發行に際して、断続機が

速度を脱しないために、折角超

高速度の印刷機で印刷したもの

も讀者に配布されるまでには相

當しく遺憾とする所であつたが

我社(東京)の技術部長江崎達夫

等の發明をする所である。

これは全國の新聞社に

おける號外發行能力の革新的考

察である。

号外發行能力の革新的考

察である。

## 鹿兒島へ普通語普及

學校の先生から直さねば……と

鹿兒島語から普通語への躍進

に先生自らが教壇に立ち鹿兒島

語を平氣で使つてゐるからかく

然るに一つとも速報を要する號

機と分離した機械を要するもの

の如きとはいつまでたつても

かし原神宮とは因縁深い故地と

いはれてゐる。

(才)議員から呼ばれた一節であ

つた、鹿兒島縣民は鹿兒島語と

普連語とを貢献し、言葉の二重

奏に慣まれてゐる。これが改

善には教育者が第一浪に起つて

普通語の普及徹底をから

せんせんとを實行してはこの際

十二日午前十時から第一回の會

合を縣立圖書館で開いた。その

席上多くの小學校先生は國文と

普連語を教へてゐない。殊

普通語、いはゆる國語の普及は

普連語、いはゆる國語の普及は

現在に比てはるる

テレヴィジョンの

研究みごとに成功

早大川原田教授らの苦心

早稻田大學電氣工學部川原田

場にラヂオで人形や景物などを

断然これを實行してはこの際

山本忠興博士指導のもとにテレ

ビジョンの研究に着手してゐる

たKの北村技術部長は「世界

の不法支出一、今回初めての違

反なる詐欺登録と投票干涉が各

一件づゝある。

研究みごとに成功

早大川原田教授らの苦心

早稻田大學電氣工學部川原田

場にラヂオで人形や景物などを

断然これを實行してはこの際

山本忠興博士指導のもとにテレ

ビジョンの研究に着手してゐる

たKの北村技術部長は「世界

の不法支出一、今回初めての違

反なる詐欺登録と投票干涉が各

一件づゝある。

テレヴィジョンの

研究みごとに成功

早大川原田教授らの苦心

早稻田大學電氣工學部川原田

場にラヂオで人形や景物などを

断然これを實行してはこの際

山本忠興博士指導のもとにテレ

ビジョンの研究に着手してゐる

たKの北村技術部長は「世界

現代は科學萬能の世の中なり。かゝる世に不思議とか不可解とかいふ文句はいらぬ筈なもの中、やつぱりその文句を使はねばならぬ以上は、不思議なものや、不可解なことが、この世の中のうちに在るものと云はざるべきである。元來お役人様と云へば官僚風のや、不可解なことを、この世職とする者なりとの萬古不易の敬語を大部分びされて、非常の満悦な態であつた相なり。

ねばならぬ以上は、不思議なものや、不可解なことが、この世の中のうちに在るものと云はざるべきである。元來お役人様と云へば官僚風のや、不可解なことを、この世職とする者なりとの萬古不易の敬語を大部分びされて、非常の満悦な態であつた相なり。

## 今日の戀愛を

どう見る?

一の

山川菊榮

今日の戀愛を

どう見る?

一の

# 學科衆大

---

## 病理、傳染經略

ルキレキとは何か、簡単にいふと即ち頸部結核か即ちルキレキである。頭部にあるグリグリをルキレキといふ。医学的にいへば結核といふ。性頭部りんば炎あるひは頭部のものも呈しない。ルキレキは結かくの多數まで色々あり、大きさはなんどう大よりも鶏卵大まで種々のものがある。澤山の線が併合して大きな塊を形成する事ある。これを線塊といつてゐる。侵入する際にその門口即ちへんとう線等には何等の病變をもたらさない。ルキレキは結かくの学説からいへば、いはゆる初期変化群に属すべきものである。従つてグリグリのある人は軽度の免疫を得て居る譯でビニケーの皮膚反応は陽性に出づるものである。

的に切開排膿した後、日光療法を施行する。切開排膿した後、日光療法を施行する。

摘出法は從前は盛んに行はれたものであるが、レントゲン療法が發達した今日は、著るしくその數が減少して居る。ルキレギが多數にある場合には摘出しても再發する恐れが多い。また多數にある場合および深部にある場合にはけい部の神經や血管等を顧慮して手術が頗る困難となるものである。

平野植民地日本人會員重本松次郎氏除名に就て

又彼の爲めに耐へ得ざる忍びなく切開排膿した後、日光療法を行なう。切開排膿した後、日光療法を行なう。切開排膿した後、日光療法を行なう。

本會も今は止むを得ず最後の手段に出んとせしに員會松本吉雄の見兼ねる所となり彼の爲めに家族の爲めに壹ヶ月に餘る効果ある仲介の勞を彼一流の反昭常々舉動にて空しく水泡に陥り直後當地の誇とする中心人物にして厚温篤質なる校長原氏の爲めに熱誠溢るゝ斡旋をも無視しなじむる爲め彼の家族内に不和が起つたのが爲め止めなく再び員會員の盡力に依て一時は圓満なる解決をなし服從なしたる如く感有りしも其後本會、會計の收

△最新式設備を以つて一般治療に應ず

# 向井歯科醫院

向井文松

井丈松  
ヘーロデ、マイオ告  
郵函……九七

郵函 · · · 九七

○内外商品○小間物○金物  
買入  
一ノ瀬商店

祖國よりの  
郵便小包受取方取扱

祖國よりの郵便小包受取方取扱

月餘、受取人が受取に來ないので、空しく日本に送戻す郵便小包の量が、バウル＝郵便局でも、其時期々々に大袋七、八個もあるとこぼしてゐました。

バウル＝郵便局より、郵便小包到着の通知狀をうけた方々は奥地から態々バウル＝迄唯其要件丈けに出て來らるゝ時間と多額の費用と手數を除いて――――

おの依頼下されば、僅かの費用で用達して差上げます

日本製麵所

先づ郵便局からの通知狀を送つて下さい。それによつて税金その他の實費をお知らせ致し、またその實費御送金次第、聯邦稅務所及銀行の手續さを了して郵便局より小包物を受取鐵道便にてお送附致しま

YAMAGUCHI  
Biriguy  
雜貨金物  
雜穀仲買  
山口商店  
山 口 兩 助  
郵函……二一七  
ノロエステ線ビリグヰ驛

御照會は本社便利部  
「香山叔子宛」に願ひます

アラサツーパ 機更線 フルタール 駅 郵函二〇  
佐藤商店  
現金主義モット  
諸内外雜貨 小間物類  
雜穀物 仲賣 他一切

御名皇の力いに寫眞本料  
を御分譲致します

Caixa, 91  
ROMISSÃO

## 農產物仲買

enaria  
NEZA  
KOGA  
JRU'U  
**家  
具  
製  
販  
賣**  
商工展覽會金メタル受領

北西線プロミソン驛郵便九一  
松 藤 初 市

Marce  
JAPAN  
MASSAGI  
BAU  
ガウル市ワシントンルイス街六ノ  
（シネマ前）▲電話三四〇

CAIXA, 103  
DUARTINA

精珈  
米精  
所所

▼内外雜貨 ▼小間物 ▲酒類一式  
▼農產物仲買  
△白米の御用命に應ず△

asa Ans  
n de Seccos e M  
inas de Benefici  
Café e Arroz  
Moinho de Fuba  
Araçatuba

Caixa Po  
-Guay

アラサツー・バ倉庫  
北西線アラサツー・バ  
郵便二二〇八 電話二一

# ソソンペ ソツレグロブ

市スンリ線西北  
一五街マガ・ダ・スタイル  
助市平宮

ミロスラウ博士診察  
バウル市電話一八

卷之三



滑稽頓智  
トムハズレ

「——「ウム解つたかな」  
地「ハイ、松山やその琴をこれ  
へ」と秃にいっつけて琴をとりよせ  
瘦たる身を起して自ら調子をと  
合せ、松山が胡弓花車が三味線  
をとつて、まづぜんしに一禮な  
し合奏をはじめる。地獄太夫は  
細かな聲を出し  
地「有漏地より室に養ふ早晩  
の、假なる色の果敢さは、間ど  
ろむまで見る夢なれや、癡仙の  
手枕酔い来て見れば、花もなし  
花を春の空にもつ、雪や氷の下  
紐を解くれば同じ谷川の、水の  
迷いの月の影、有無、二つを離  
れては、心にかかる雲もなく  
來らずすらすき／＼の、飽か  
ぬ別れは鐘と鳥、恨むことなく  
鳴く空の、何か残つて罪となる  
文にも書かれぬ睡事は教の外の  
傳へにて、墨繪にかきし松の空  
闇の夜に啼かぬ鳥の聲きけば生  
れぬ先の父ぞ戀しき」  
と歌ひ終るや、そのまま琴のし  
に両手を支へたまゝ往生した。  
居並ぶ皆涙をこぼした。茲に  
獄太夫は僅か十九才で此の世を  
去つたが、健屋長兵衛はこの世  
たいといふのを禪師は聞かれず  
——「イヤ」とその志は、結構な  
けれども、此處に兄の悟助も居  
ことがよい」  
居合する人々は驚いたが、禪師の  
悟「イヤ禪師様私共兄妹は禪師の  
のお弟子、宜しき様にお差圖さしお  
——「ア、それでは悟助、拙僧に金出  
任せて呉れ、この死骸は生前の  
志しによつて、何れかへ捨てる  
方がよい」  
居合する人々は驚いたが、禪師の  
お言葉であるから、遂に太夫の  
死骸は經幡子桶に入れて悟助と  
禪師と兩人で差し擔ぎ、野邊へ  
持つて居たといふことで禪師は悟助  
草原へ捨てゝかへつた四十九日  
間雨に曝され風に吹かれ死床しゆとう  
は足も足も満足に骨がつながつ  
て居たといふことを、禪師は悟助  
と共に此の死骸を見に来られた  
——「ア、地獄はよく悟つたもの  
ちや此の醜い姿を見せて色に染  
みたものを戒めやうといふ彼の  
が心、ナカ／＼凡人でない、女  
ながらも天暗れもののぢや」  
と骨を集めて戻つて、長兵衛が

「やあ、お前はどこの木像でござりますか?」  
「木像も御無理な木像でござります。元來云ふのはいかぬ、シテお前はどくちで作らしやつた」

が、捨に捨たち鹽たち、その上女房も里へかへし、一念をこめて刻みました」  
「アハ……そんなことをするから、その作分が廣るのじや佛とは何を岩間の苦しみづらに也駄も同じ木の端といふことがある、コレ空に光つてゐる、日輪を見さつしやれ邊りをこめて開眼すれば、佛になるではないか、佛を作る木ぢやか淨なところへも又藁小便の上にもお照らしになる、佛を作るのは其方の役じや、拙僧が精神愚難し事を取立と云つて、別に種ねを蒔いてはしない、其方が飲みたい酒をのまず、不自由をして心喜ばずに作った佛ぢや、廣らいでしがれを、百神の屋根を葺いても草鞋穿きで仕事をするではないか、酒も飲み、肴も食い、女にも交つて、そうして作つて下さい、只表向きの精進やへつらいの氣込みでは何もならぬ、どうぞもう一体作つて下され」と云はれて流石の五郎兵衛も神の屋根を葺いても草鞋穿きで仕事をするではないか、酒も飲み、肴も食い、女にも交つて、作つて下され

「一「ウムユべな彌陀が拙僧のところへ來て、今日來たるか明け来るかと申ゆへ、行きたくなければども行かねばなるまい」二三日經つたら行くと約束をだ」  
氣樂なことを仰しやてゐる、  
朦々然而三十年、  
炎々然而三十年、  
朦々炎々六十年、  
末期脱尿捧梵天

ゼエツツナ町の親切本意の  
日本人御宿は

山下藤太郎商店へ

日乃出は日乃出

「ア、今日は多くの弟子達  
つて來てくれて、イフにない  
があけて誠に清々として、一同  
からと云つた」

鐵「恐れ入りました」

「一「ア、今日は多くの弟子達  
つて來てくれて、イフにない  
があけて誠に清々として、一同  
からと云つた」

鐵「心得へました」

と用意の茶葉子をそれへ出す  
「コレ、一同のものへ贈り  
をするのに茶も葉子もよいが、夫  
れよりは看でもたべて體をよし  
夫にいたし、五十年のものは、  
す年も生きてくれよ」

とそのうち自ら木浴をして  
を清め、墨染の衣には、木暎  
の袈裟頭髮もきれいにお剃り  
は、前以て時の帝へ奏上せら  
などと見へ、京都より勅使飛鳥  
大納言春父卿が御入りになり  
ぜんしの前へ出て

と起たんとするを春久卿押しと  
し  
春「お弟子のものより知らせに  
よつて直奏聞を遂げしところ勅  
命によつて御見舞申せとござ  
います、何か御遺言あれば早速  
奏聞を遂げるでございませう」  
春「イヤ死にとうもない」  
春「雲棚引かず、花降らず——」  
春「ハ、ツ」  
との時ぜんしは御聲からか  
に、  
借り置き  
五つのものを四つかへし。  
本來空に今ぞもとづく  
アハ——」  
とお笑ひにかつたを此の世の別  
れとして、遂に行年八十八歳  
もつて自出度く遷化をせられた  
勅使に立つて飛鳥井大納言春久  
卿は此の臨終を見届けられて、  
早速歸京遊ばされて此の赴奏を  
上する、又改めて葬送の節は勅  
使を賜はり立派に回向をせられ  
た、この事が近傍は云ふまでも  
なく本国まで知れると、わざわ  
ざせんしの徳を慕ひ御葬送を拜  
みに來たといふことである。御  
遺骸は矢張り山城國新村瑞龍山  
妙勝寺に葬られる、今までこの  
像を安置してあつて、彼の植樹  
された髪が長くのびて變らなくな  
るといふことである、尊き御  
身分でありかがら出家沙門に一  
生をゆだね、衆生濟度し積んだ  
徳善は實に廣大なものである達  
磨宗は愈縛へぜんしの名は今に  
致るもの三尺の童子さへ知らぬ  
のゝ事は只いに偶然のことであ  
はない、この外にも細微にわな  
ついていろ／＼珍談奇話があるが  
あまり長くなるから本編はこれ  
で置筆をする。(をわり)

# 社會船商阪大

タムシ  
土マケ  
かげみあるテキモ

大河內藥化學研究所

Telephone 2-4818

**Laboratorio Chimico Phco. Japonez**  
RUA ASSEMBLÉA, 31  
SÃO PAULO

切取リテ手  
下サニ御手  
紙ノ表ハリ

ノロエスティ驛前  
番號 一三六號 廣場 貸自動車

CASA  
Japoneza  
OKADA & OTA  
Iza, 166 - Rue São Luiz, 83  
est. Marilia Paulista

日伯女子の理想的教育機關  
裁縫烹煮家事等日伯語にて教  
▼通信教授開始▲  
ノロエヌラ線リ昂ス市(鶴田醫院前)郵函五〇番  
藤澤醬油特約販賣店

岡田 大田商店

内外食料品、雜貨商  
伊藤定五郎  
詳細は左記へ  
バウリスタ線マリ、ア驛

**CASA OHARA**  
OHARA & IRMÃOS,  
Machina de Beneficiar Arroz  
**ARAÇATUBA**  
卸 小 買 雜 穀 仲 買  
精綿 精米 及 フバ製粉所  
大原兄弟商會 北西線アラサツーパ牌  
カルロス・ゴメス街 郵局……二〇八  
電話……三〇番

**Casa HIGASHI**  
Pennapolis  
▲小間物  
▲内外雜貨  
▲穀類仲賣  
**東市次 東商店**

卷之三